

刊夕 日七月三



定価 一冊五銭 一月一元五角 半年七元五角 一年十四元
 廣告料 五二二 二行五五 三行五五
 日曜祭日の翌日休刊
 発行所 常磐毎日新聞社 福島県郡山市常磐町三三三
 電話 六三〇
 印刷所 常磐毎日印刷株式会社 郡山市常磐町三三三



我に子等あり
 我に財あり

真繼 雲山

【六】

「何んぞ財あらん」この次の句は「何ぞ子あらん」と同じい心持でのべられたのです。「我」の財ぢやない。我等の財である。私有でもなければ、共有でもない。天下の公物なんだ。個人も團體も私すべからざる公物です。三寶物です。釋尊は洵にいふ言葉を使つてゐますが「最上の堅固財は天下と共に一切の財物を公用することだ」といつてゐられます。一番たしかかな倉にお金を藏つて置く。一番「堅固な財」とは私有や共有をせずして、公有公用する事だと考へたのです。「我に財あり」とりきむから奪はれるのです。天下の趣くところ

回

ろを察して財物を公用するところに地上誰か是を難するものがあるやませうか。今こゝに貧しい人が苦しんで

ノート

衆議員の解散は明治二十四年以來過般の犬養内閣の時迄で十四回中伊藤内閣が三回松方正義内閣が各二

ある。貧困に喘いでいるといふことを知りながら、財をもつものが、私かに屏風の蔭で美味しい物を喰べるといふやうな、この見苦しき心では公有公用ではない。どうか財物を生かしたい。飽いてゐるものにくはせることはない。うえてゐるものに食物は生きる財物の生きるやうに、これを公用するからだ。私達は多くの人

々と共に同じ飲食をしよう。佛教ではこの境地を「一切同飽食」といつてゐる。一人だけ飲食を私するのでもなければ、共有ぢやない。財物が一番生きて用ひられるところへ公有させることだ。財を決して私有すべきでないことは佛教でいふ通り、財は普請の結晶だからだ。普請とは普ねく皆んなの手を借りたといふことだ。普ねく力を併すといふことなんだ。「普請衆力」といふのが本當の意です。天下の財は悉く普請です決して我

一人の力で出来たものではない。多くは番頭、丁稚親戚、周囲の人々、その爲めに貧しくなつた人々さへある。天下の普請、合力のもので、一人の手で之れをわがま、勝手に使ふべきものではない。皆んなこれは天下の御馳走物、御苦勞物です。天下の馳走だ。大きな力が集つて出来たものだ。私達は財を天下と共に味ひ天下と共に使つて行かなければならない財の生きるやうに本當に正しい財の用ひ方です。この公有される財こそ公有された子と共に楯にもなり、よるべともなり、自他を生かし、天下を生かす斯くして茲に正しき子と財の生かし方持ち方が示されたわけでありませう。【完】

【狂歌】 山路 孤鳩
 スポーツの足がしびれて 嫁御寮四苦八苦して高砂をさき、
 もう行かぬ花の東京自動車の流れ越す度膽は潰れて
 湯のながしはるなと子に注意してわれふと迂り子に笑はれぬ
 小僧らは引ッ張り風の就職に賣れ残りたる學士様かな

耳鼻咽喉科専門
 平田町 (電話六九二番)
山内醫院
 醫學士 山内亨吉
 病室完備
 自炊便有

第三十回生徒募集
非常時の女性に促す
 婦人職業の近道に
 産婆看護婦を御選み下さい
 それには成績の最もよいと定評のある
平南町 産婆看護婦學校
 △申込み成るべく早く
 △新學期の開始は四月八日より
平産婆看護婦學校
 校長 清野キヨ子
 (電話三〇七番)

電話 359 番
貨切 の御用命は!
是非 セリザワ
タクシー へ!
 御願ひ致します

市原醫院
 平町田町 (電二一四番)
 内科 小兒科 市原卯太郎
 外科梅毒淋病 市原三三男
 入院隨時

科外
 門 專
 科 線 光
上田外科醫院
 平町南町
 電話一九二番

玉屋洋品店
 平町田町通電話六五六番


大至屋商店
 磐城セメント會社特約店
 磐城平町五丁目 電話九番九九番
 □良品廉賣に勝る商略なし
 □確實敏捷は の生命なり

科外
 X 光線科
 性病科
安齊外科醫院
 平町田町
 電話四七五番

國寶阿彌陀堂の修理に着工

併せて火防池 文部省の補助決定

内郷村字白水の國寶阿彌陀堂修理工事は昨年以來願成寺住職赤土興榮師その他から主務省に請願中の處々々々文部省の補助額が決定した爲め此程着工したが総工費八千三百九圓(國庫補助六千三百九圓、地元負擔二千九百圓)で其の内約一千圓を投じて火防池を設置する事になつて居る

火薬取扱

關係者協議

平、植田、四倉三警察署管内の火薬取扱關係者百五十名の協議會は来る九日午前九時より平署會議室に開かれ關係者打合せ開催方を縣に陳情する件を協議し終つて座談會を備すと

湯本綴兩驛

改築が内定

水戸運輸事務所は目下管内各驛の改築を調査中であるが最近炭礦線として躍進しつつある湯本綴兩驛を各二萬圓の工費で十年度中に改築する事に内定した本七日中村所長以下各係主任が實地調査した

一事は萬事の 此の感念

聯合青年團が けふ總會に決議

飯野仲田政喜 好間第一 猪狩勇 同第二中村慶次 平小野誠三郎 内郷大象 只治 川前松本吉三 桶賣會田光實 小川草野永雄 赤井第一草野好雄 同北部猪狩一司 豊間志

昨報聯合青年團第三方面會總會は今日午前九時から聚樂館に開催、副會長大嶺庫氏開會を宣し一同起立國家を合唱、會長篠山廉氏が詔書及び命令を奉讀して挨拶を述べ優良團員として

賀重之函 高久藁谷久太郎 夏井坂本兼康 神谷片寄實

の十四君を表彰し議事に入り協議の結果萬場一致左記宣言を決議し終つて各團員の意見發表及び前滿洲軍々務顧問砲兵中佐後藤校造氏の「大越中佐を追憶して」と題する講演あり並に剣道大會餘興映畫等に移り午後三時萬才三唱裡に閉會したが出席團員約六百餘名 (一事は萬事の修養鍛錬に一層留意すること) 個人として將た團體として一事々々一歩々々聖訓

一般婦人に

軍用被服の講習會を明日から

既報平職業紹介所は去る二日より平町一般婦人の爲め軍用被服の縫製作業を女子青年團の希望者に實講習中である一般婦人の爲め明日午前九時より藤田女學校に第二師團經理部員を招き第二回講習會を開く事になつた希望者は鉛筆、手帳、メートル尺、針、留針、仕付糸、ヘラ、袖形、密針等

冷害防止座談 田人組合村は冷害防止対策として

来る十三日より十七日迄左記日割で座談會を開くが講師は郡農會青山技手山駐在技術員である 十三日石住 十四日貝宿 十五日荷路夫 十六日田人 十七日黒田

母校の名譽と 國家の期待に

添はん事を望むと 警中卒業式の告辭

舉行縣知事代理として高井教育課長臨席、小楡山校長の訓辭、伊藤知事の

昨報警中第三十五回卒業證書授與式は今日午前十時か同校講堂に於て

告辭、青沼平町長其他來賓及び關内同窓會長の祝辭、在學生總代四年水野透君の送辭、卒業生百八十三名の總代山崎研治君の答辭、卒業生保護者總代渡邊賢一の謝辭あつて同十一時半閉式したが知事の告辭左の如くである 本日茲に本校卒業證書授與式に臨み卒業生諸子と其の

電話買受度し (姓名在社)

磨を加へ剛健なる志操を堅持し 刻苦精勵 克く其の本分を完うし以て本縣教育の眞價を發揚して遺憾あることなく克く母校の名譽と國家の期待とに添はんことを期すべきなり希くは諸子各々自己の適する所に隨つて志を立て一層

普通教育の課程を了へて各其の志す所に向つて進まんとするは諸子のため將邦家のため誠に慶賀に堪へざるなり惟ふに帝國の現狀は内に國家的自覺愈々昂り外に國威の顯揚著しきものありと雖も内治外交愈々多事多難を加へ國を舉げて國力充の實と國運の進展とに努むべきの狀なり諸子須く世界の大勢と帝國の現狀とに鑑み直ちに社會の實務に就くと進んで上級の學校に學ばんとするに論なく今後更に一層の修養鍊

町道路認定

平町に於ける左記三線は町道路に認定さる △舊城跡七の八同十一の三 地先九十三間△古鍛冶町卅六の二大館十八の一 地先百卅六間△立町六爾宜町廿二地先五十七間

枯木伐採處分 平町長橋町にては今回縣から拂下げを許可された尼子稻荷境内枯木伐採處分の件を協議する爲め明日午前十時から同神社に區委員社總氏

平町に於ける左記三線は町道路に認定さる △舊城跡七の八同十一の三 地先九十三間△古鍛冶町卅六の二大館十八の一 地先百卅六間△立町六爾宜町廿二地先五十七間

家事細目編成 郡女

教員會は来る九日午後一時から平第二小學校に郡下各小學校家事科主任會を開き細目編成に就いて協議する

平商卒業判定

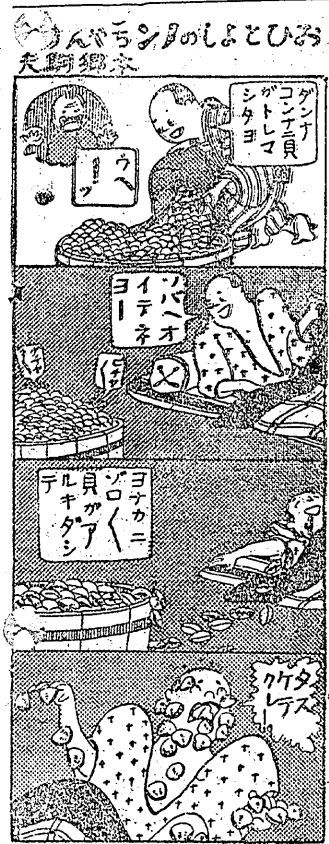
平商は本日午後一時から同校會議室に於て卒業生の判定會を開いた

平町人事

△林木町三九矢内貞徳氏三男昌國 △搔樋小路當時大阪市西區阿波堀通一丁目新宮健雄氏長男涼清

平職業紹介所報告

△漁業雜夫 二十前後 尋卒 給料面談 △洗濯見習 二十以下 尋卒 給料面談 △女中 二十五迄 尋卒 月四一五圓 △小店員 十六一七 尋卒 回職を求める方 △土工夫 二十三才 尋卒 △雜夫 五十五才 尋四修 △女中 十七才 尋五修 △給仕 十八才 佑賢卒



印刷の御用は 設備完全の 『常磐毎日』 電話六三〇

他にも女を

誘拐の形跡

平町に連類者

けふ引致さる

昨報酌婦誘拐團が平署に檢舉された結果去月廿二日誘拐團の長正夫が湯本から自動車で六友花枝を誘拐し平町に逃走した際福宣町高田平八郎(三)は正夫に頼まれ花枝を匿して置き一味と種々連絡を取つて居た事が判つたので平八郎は本七日平署に引致されたが此の外好問村生れの女を正夫が誘拐し高田方に預けて他に賣り飛ばした形勢があるので渡邊温部長が餘罪取調中である

滿蒙博覽會

開期中の催し物

大小色とりどりに

既報花の四月平町に開催される滿蒙と國防博覽會は會場の建設出品申込等に大繁忙を告げ着々進捗して居るが此程開期中の大小各種催し物を左の如く決定した

- (四月一日)正一時より開會式(六日)午後六時より一般の提灯行列(十日)在郷軍人會出征兵遺族招待會(十四日)軍艦旗献納デ(十五日)花火大會(十八日)少年旗行列(廿一日)縣賞風上大會(廿三日)縣賞風上大會(廿三日)

學校賞の大鏡到着

第二校で披露

既報平第二小學校は過般東京小學校に於て開催された皇太子殿下御誕生記念全國小學校兒童作品成績競技會にて獲得した學校賞の賞品大鏡一面が此程到着したので今七日朝會の際全校生徒に披露し直ちに同校衛生室に飾付けた

平町郷軍知事表彰

入學願受付數今七

平町在郷軍人分會は負擔金の納付成續も良好であつた爲め此程本縣支會長伊藤知事より金一封に添へて表彰状を贈られた

指定村指導

郡下本年度經濟更生指定村に對し縣は左記日割で指導を行ふと

- (十五日)大浦養蠶 縣推本技手(廿四日)飯野 統計(廿五日)神谷統計 吉田統計課長

六年生の見學

一小學校六年生は今七日上川佐藤、橋本の各訓導に引

湯治客が庖丁自殺

傍らに就寢中の妻が知らぬ間に

泉村大字下川字萱手礦泉浴場泉ユキ方の湯治客内郷村大字綴字濱井場鐵工職鈴木益治(三)は六日午後一時頃勝手もとより菜切り庖丁を取出し咽喉部を搔つ切り自殺したのを傍らに就寢中の妻が少しも氣付かず隣室の義兄が発見大騒ぎとなつたが既に絶命の後で手の盡し様なく植田署の検視を受けた原因は去る一日より鈴木が精神に異常を呈した爲め妻と義兄が付添つて湯治中にて發作的に此の舉に及んだものらしいと

大越中佐の墓前に参拜

別項今七日總會を開催した

明日の天気

今夜も明日も北西の曇後天氣良くなる

今晚の部

- 後六、〇〇(子供の時間)物語詩「尊い片腕」と獨唱(土方美枝子)
- 後六、二五 英語講座(井手 義行)
- 後七、三〇 講演「大山元師を偲びて」尾野 實信

華道研究

十週年記念

横山女史の企て平館隣りから元警越銀行西隣りに移轉した華道教授横山美聲女史は教授を開始して以來十週年に當る所からこれを記念し來る十日午前九時から

東京大名題

吾妻市之丞



近日中來演

第一校が願書取纏

百五十八名

郡聯合第三方面部會は緊急動議に依り本日内郷村願成寺に於て慰靈祭を執行した大越中佐の墓前に詣でる事を決議平町加藤正保君外四名代表して参参した

- 前七、〇一基礎(一)ダンス語講座 丸山順太郎
- 前七、三〇 朝の修養「心前講話」(七)石川謙
- 前八、〇〇 家庭講座「春の家庭園藝」(四)「春の花弁」(二)福井稔
- 前八、三〇 滿洲皇帝賜祭建國慰靈大祭新京大同公園祭場中繼
- 〇五 管絃樂 日本放送交響樂團
- 後二、〇〇 婦人講座「婦人と職業」(三)婦人の職業と責任 桐原保見
- 後五、三五 講演「志波彦

靴を盗み

足が付く

内郷村字白水大和田定吉(三)は去月中旬平町二丁目靴店松本磯治方の店先で靴三足時價三十一圓の品を窃盗した事平署に探知され昨日六日自宅で檢査された

副業統制の協議

十日團体事務所が開

縣主催本郡下各町村副業統制協議會は來る十日午前十時より團体事務所樓上で執行され縣農會より泉山技師が出席する

裁判所たより

- △好問村大字北好問字三反田岡田川炭礦長屋支柱夫手塚辰吉(三)は去る二月二日午後七時四十分頃同礦元山堅坑下採炭場に於て監督の中川清氏を金棒で毆打傷害罪として罰金二十圓
- △湯本町字臺一六炭礦機山械夫大原田秀治(三)内郷村方に登樓醉餘同家の酌婦關ロミキさんを毆打した上店內の火鉢、植木鉢、灰皿、カップ、鏡臺等上間に投付け之を壊し更に歸途同家表通りで折柄出會つた同村香山治郎君に喧嘩を吹掛け同人を散々毆打して附近の下水堀に投げ込み亂暴を働きたる爲め罰金二十圓宛に今七日夫々平區裁判所に於て略式命令を以て處分された

- 神社の上棟祭に就て「古川左京
- 後六、〇〇 獨唱本多信子
- 後六、二五 基礎英語講座
- 後七、〇〇 講演「東北地方工業振興について」國井喜太郎
- 後八、〇〇 民謡 木會福島連中南北安曇郡連中岩村田町連中長野野菊田劇場中繼
- 後八、三〇 和洋合奏 中京和洋合奏團
- 後八、五〇 浪花節「袈裟御前」東三ツ子

途中捕る

小樽へ飛ぶ 勿來町字窪田雜貨商若松與吉方同居人新瀨縣西蒲原郡田野町生れ若松一與(三)は昨六日北海道小樽市へ出稼すべく無断家出し同夜十一時五十二分着列車で平驛に着いた處を驛前交番の鈴木部長に捕へられた



明治太平記

(上巻及上巻)

(作) 寺島征史
(筆) 野口

第七十回 種答問(十)

「なほのこと都合がよいでござせう。横濱へ往つて引取ぢや」

「拙者、いや僕はそれでよいが、あれなるをなごは困る、パークス奴が寸時もあのをなごひとりの外出をゆるさん」

「しかし、そこをうまくやるのが、商賣道によつて賢し……といふのでござせうをなごをそつと連れ出して横濱へ赴くのだね」

「いや、連れ出さうにも監視が嚴重ではござるをあるあの紅顔のボーイたちまでが政府の手先となつて、をなごの一舉一動に注意してをる始末なンぢやから」

「ほう、その嚴重な監視の眼をぬすんでよくもおまへさん、をなごに近づいたのう」

「それもこれも、いのちがけなごさ。見いボーイたちおれにおくる視線を一時もゆるめぬではないか。いつ政府の犬に追はれるかしの我身ぢや」

「いつそ、助太刀商賣を放棄して馬丁になつてをるを」

幸ひ、パークスを刺害して平地に波瀾を起してやらうかとまで大志賀はかんがへてをるのだ。

「ウエルズが横濱に公用といふのは、れいの鐵道敷設技師長エドモンド・モレル



嘉右衛門は何のことか一向にわからなかつた。

「何んの話かね、所さん、エドロフの蛙の賣込みの相談かね」

「ところが、あんた、助太刀でござすよ」

「へえ、助太刀？」

まさか、仇討の助太刀とウエルズを誘ひ出しこのホ

は、おもはず何か商賣取引の略語かとおもつた。

「で、どうだい、ひとつおんたひとりで乗込んでさ、アウエルズを引張りだす工

風はないものかね、紹介役に高島さんをたのむとして

「なんでござす」と大志賀はいよゝ低聲になつて、

「ウエルズ奴、身分をもちまへずにあれなるおとわに熱心してをるさうぢや」

「ほう」

「したがつて、言葉巧みにウエルズを誘ひ出しこのホテル館へつれてくるぢや」

「なるほど、おとわさんがおまへに逢ひたがつてゐるとでもいつてかい、なるほど……」

「パークス奴、いかに嫉妬深い男でな、ウエルズがおとわに横懸慕してをるのをしつて館へもつれていかぬ

ウエルズを敬遠して、横濱へ追ひやつたのも、おとわを寝取られるおそれがあるからだ」

のところへ赴いたのでござせう」

「いかに、しかしそれをどうして？」

「いや、そのモレルならこゝにをられる高島さんがよくしつてなごさ。いつでも案内してくださるよ」

ひとり呑込みに茂平次はいつて嘉右衛門の方を見た

「なるほど……よいことがある」

洋食 喫茶 宴会

エビフライ ビフテキ

女給数名募集

コンパル

TEL.666

藤沼醫院

平町・紺屋町

電話五〇七番

リスクはホシ

感冒の豫防と治療

(複方キニーネ錠)

ホシ風薬 定価 〇〇・二〇

ホシアスピリン 定価 〇〇・三〇

ホシ解熱薬 定価 〇〇・五〇

ホシ法痰薬 定価 〇〇・五〇

ホシニューカロール 定価 〇〇・三〇

ホシオイピラミン 定価 〇〇・四三

ホシ鹽規カンフル錠 定価 〇〇・一八

ホシ複方鹽剉散 定価 〇〇・二〇

社 會 式 株 藥 製 星 田 反 五 ・ 京 東